

地震に関するセミナー
— 地域における減災対策 —
講演資料

- ◆開催日 平成 18 年 9 月 8 日 (金)
- ◆会場 滋賀県立男女共同参画センター [G-NETしが]
- ◆主催 文部科学省／滋賀県

- 12:30 開 場
- 13:00～13:10 開会の挨拶
- 13:10～13:40 説 明「全国を概観した地震動予測地図について」
文部科学省研究開発局地震・防災研究課
- 13:40～14:30 講 演「災害が起こったら、災害が起こる前に
～地域防災力の向上に向けて」
講師：菅 磨志保 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
特任講師
- 14:30～15:00 パネルディスカッション基調講演
「新潟県中越地震に学ぶ地域コミュニティの役割」
講師：重川 希志依 富士常葉大学環境防災学部教授
- 15:00～15:10 休 憩
- 15:10～16:40 パネルディスカッション
「持続可能な地域における減災対策のすすめ」
○コーディネーター 重川希志依 (富士常葉大学環境防災学部教授)
○パネリスト 青山 達 (滋賀県総合防災課地震対策室長)
(50音順) 大西 賞典 (加古川グリーンシティ防災会会長)
菅 磨志保 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師)
津村 孝司 (安土町長)
中田 全一 (近江八幡市岡山公民館長)
- 16:40 閉 会

※手話通訳・要約筆記がつきます。

講師・パネリストの紹介

重川 希志依（しげかわ きしえ）

富士常葉大学環境防災学部 教授

略歴 東京理科大学工学部卒業。
(財)都市防災研究所主任研究員、同研究部長
2000年 富士常葉大学環境防災学部 助教授
2003年 富士常葉大学環境防災学部 教授
中央防災会議（会長：内閣総理大臣）委員
同会議に設置される専門調査会委員、消防審議会委員、
地震調査研究推進本部政策委員会委員、各種委員会委員、
学会理事等を務める。

専門分野 環境防災、都市防災、災害弱者対策、防災教育、市民の防災力向上等。

青山 達（あおやま とおる）

滋賀県県民文化生活部総合防災課地震対策室長

略歴 1968年に滋賀県職員となる。
2001年から4月から防災業務に従事し
2003年10月 県に地震対策室が設置され、地震対策室長となる。

主な活動 自治会、企業、各種団体問わず「出前講座」に奔走している。

大西 賞典 (おおにし しょうすけ)

加古川グリーンシティ防災会 会長

略歴 1962年3月 兵庫県加古川市生まれ

1980年3月 加古川東高校卒

1984年3月 大阪工業大学卒

現職 加古川グリーンシティ防災会 会長 (発足時からの現在に至る9年)

兵庫県地域防災リーダー養成講座 講師

兵庫県防災リーダー講座カリキュラム検討委員会 委員

東播磨ウオーターマンスピリット (東播磨灘海上安全活動) 代表

主な活動 阪神・淡路大震災後に「マンションの災害対策」に徹底的に取り組み、すべての人に防災意識、防災活動に取り組むことができるようになるかを考え、楽しくなければ防災の輪は広がらない「楽しく防災活動をやろう」というテーマで住民の方々に対し地域防災力の向上に大きく貢献し活動している。

「グリーンだより」(広報誌)、「グリーンネット」(マンション運営情報及び緊急情報伝達システム)、「ニューメディアシステム」(空きチャンネルを利用したコミュニティ放送)、及び「命のライセンス」(災害時の行動指針を示した小冊子)等を利用した情報提供設備を構築した。

地域に開かれた「防災井戸」を民間レベルで設置し大きな反響を呼んだ。

NHK「難問解決!ご近所の底力」他 毎日放送等に出演

神戸新聞をはじめ、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日経新聞等に加古川グリーンシティ防災会の活動が度々取りあげられる。

受賞 2003年1月 兵庫県優良自主防災組織表彰 受賞

2004年7月 加古川市防犯協会 防犯表彰 受賞

2006年3月 総務省消防庁「第10回防災まちづくり大賞」総務大臣賞受賞

2006年9月 「防災功労者内閣総理大臣表彰」受賞

菅 磨志保 (すが ましほ)

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任講師

- 経歴 1996年9月 東京都立大学(現:首都大学)社会科学研究所(社会福祉学専攻)修士課程修了
東京ボランティア・市民活動センター(東京都社会福祉協議会)専門員
東京都生協連・消費生活研究所 研究員
2002年4月 人と防災未来センターの専任研究員に着任。
2005年4月 神戸大学自然科学研究科より学位(学術博士)取得。
- 現職 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任講師
人と防災未来センター リサーチフェロー
早稲田大学(理工学部)非常勤講師
早稲田大学 地域社会と危機管理研究所 客員研究員
- 著書 『震災ボランティアの社会学』共著 ミネルヴァ書房
『災害時におけるコミュニティとボランティア』共著 筒井書房等
『阪神淡路大震災10年』共著 神戸新聞総合出版センター

津村 孝司 (つむら たかし)

安土町長

- 略歴 1949年生
学習塾経営
2003年10月 安土町長就任
元 安土町議会議員
元 滋賀県環境生活協同組合副理事長

中田 全一 (なかた ぜんいち)

近江八幡市岡山公民館長

- 略歴 1944年8月15日生まれ
2000年4月から岡山公民館長
- 現職 岡山公民館長
岡山学区まちづくり協議会会長
岡山学区子ども体験活動協議会会長
協働のまちづくり基本条例策定委員会副委員長

全国を概観した地震動予測地図について

文部科学省研究開発局地震・防災研究課

全国を概観した地震動予測地図について

地震に関するセミナー
- 地域における減災対策 -

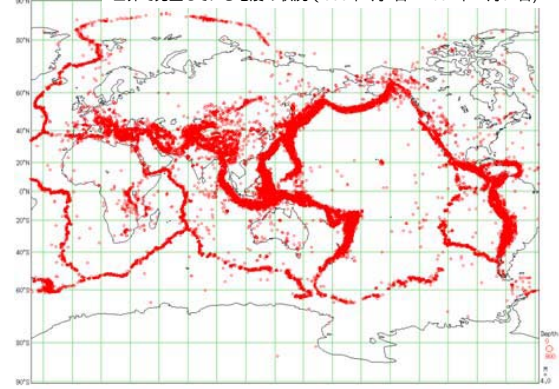
文部科学省研究開発局地震・防災研究課

目 次

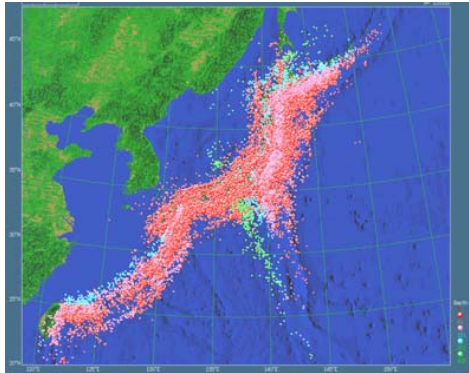
1. 地震の発生状況について
2. 地震調査研究推進本部について
3. 全国を概観した地震動予測地図について
(1) 確率論的地震動予測地図について
(2) 震源断層を特定した地震動予測地図について
4. 地震動予測地図の活用について

1.地震の発生状況について

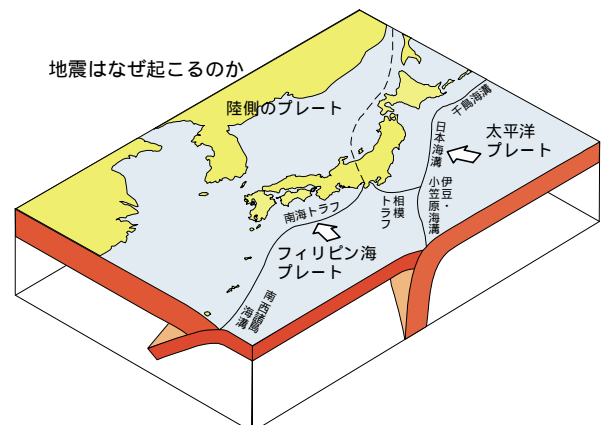
世界で発生している地震の状況 (1995年1月1日～2004年12月31日)



一年間に日本付近で発生する地震(2004年1月1日～12月31日)



地震はなぜ起こるのか



2.地震調査研究推進本部について

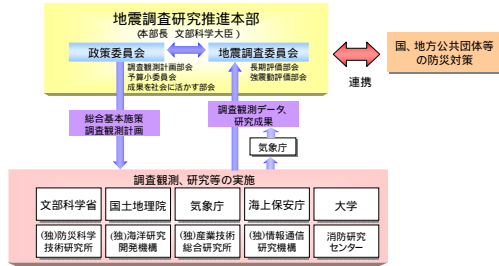
地震調査研究推進本部の設置の経緯

- ・ 阪神・淡路大震災(平成7年1月)の教訓
 - ・ 地震に関する調査研究の成果が国民や防災を担当する機関に十分に伝達される体制になっていなかった。
- ・ 地震防災対策特別措置法の制定(平成7年7月)
 - 全国にわたる総合的な地震防災対策を推進するため、地震防災対策特別措置法が議員立法によって制定。
- ・ 行政施策に直結すべき地震に関する調査研究の責任体制を明らかにし、これを政府として一元的に推進するため、同法に基づき、政府の特別の機関として「地震調査研究推進本部」を設置。

地震調査研究推進本部の構成

本部長(文部科学大臣)と本部長(関係府省の事務次官等)から構成され、その下に関係機関の職員及び学識経験者から構成される**政策委員会**と**地震調査委員会**が設置されています。

地震調査研究推進本部長 内閣府副長官、内閣府事務次官、総務事務次官、文部科学事務次官(本部長代理)、経済産業事務次官、国土交通事務次官



- 地震調査研究の推進について
- 地震に関する観測、測量、調査及び研究の推進についての総合的かつ基本的な施策 - (平成11年4月23日、地震調査研究推進本部) 「総合基本施策」

- ・ 当面推進すべき主要な施策

地震動予測地図の作成

- リアルタイムによる地震情報の伝達の推進
- 大規模地震対策特別措置法に基づく地震防災対策強化地域及びその周辺における観測等の充実
- 地震予知のための観測研究の推進

3.全国を概観した地震動予測地図について

全国を概観した地震動予測地図の概要

全国を概観した地震動予測地図は、「確率論的地震動予測地図」と「震源断層を特定した地震動予測地図」という観点の異なる2種類の地図で構成されている。

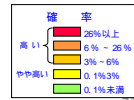
- ・ 確率論的地震動予測地図
 - 対象地域に影響を及ぼす全ての地震を考慮して、各地震の発生確率と、地震が発生したときの揺れの強さの予測値に対するばらつきを加味した、**強い揺れに見舞われる可能性の地図。**
- ・ 震源断層を特定した地震動予測地図
 - ある特定の地震が発生したときに、対象地域で**予測される揺れの強さを示した地図。**

3.全国を概観した地震動予測地図について

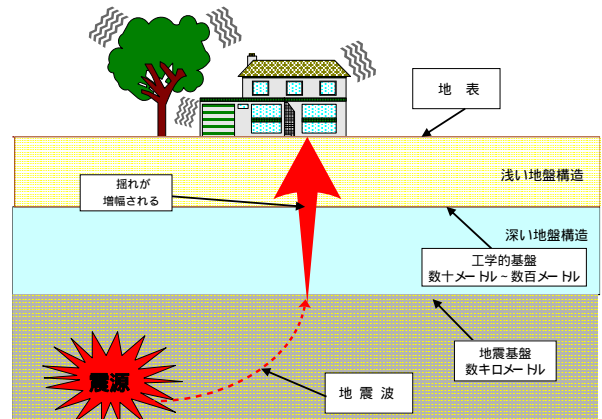
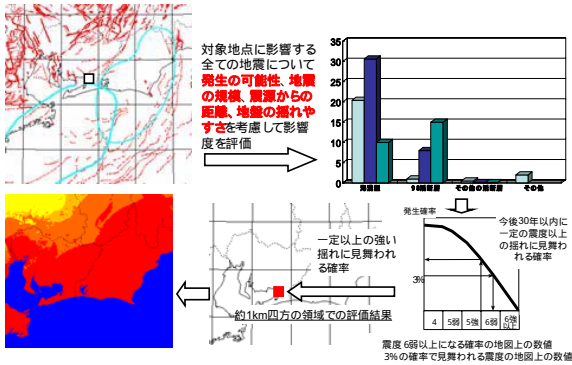
(1)確率論的地震動予測地図について

確率論的地震動予測地図
(30年以内に震度6弱以上に見舞われる確率)

全地震
主要98断層帯
の固有地震
+
海溝型地震
+
その他の地震



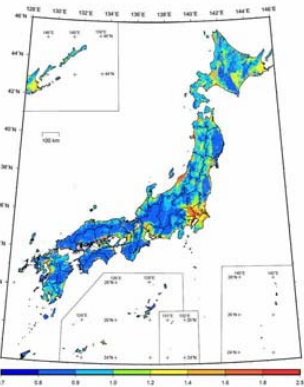
確率論的地震動予測地図



浅い地盤構造のモデルに基づいて、そこから地表までの最大速度の増幅率を示した地図

表層地盤が軟弱な場所では、増幅率が高く地表では強い揺れになる恐れがある。

人口が集中している堆積平野では、軟弱な地盤が多く強い揺れに見舞われる恐れがある



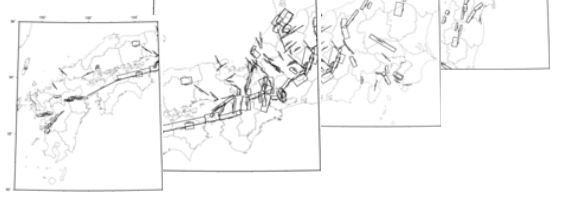
確率論的地震動予測地図で考慮した地震

- 主要98断層帯に発生する固有地震
- 海溝型地震
- その他の地震 (長期評価の対象となっていない地震)
 - 震源断層をある程度特定できる地震
 - 主要98断層帯以外の活断層に発生する地震
 - 主要98断層帯に発生する地震のうち固有地震以外の地震
 - 震源断層を予め特定しにくい地震
 - プレート間で発生する地震のうち大地震以外の地震
 - 沈み込む(沈み込んだ)プレート内で発生する地震のうち大地震以外の地震
 - 陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震
 - 上記のいずれかに分類することが困難なため地域特性を考慮して分類した地震 (浦河沖、日本海東縁部、伊豆諸島以南、南西諸島付近の震源を予め特定しにくい地震)

確率論的地震動予測地図で考慮した地震

・ 主要98断層帯に発生する固有地震

主要98断層帯とは、新編日本の活断層」において、原則として、下記の条件を満たすもの
 ○長さ20km以上のもの
 ○活動度A又はBのもの
 ○確実度 又は のもの



平成18年9月8日 全国を概観した地震動予測地図について 19

主要98断層帯に発生する固有地震(滋賀県)

琵琶湖西岸断層帯
 想定される地震の規模 M7.8程度
 30年以内の発生確率 0.09% - 9%
 平均活動間隔 約1900年-4500年
 最新活動時期 約2800年前-2400年前



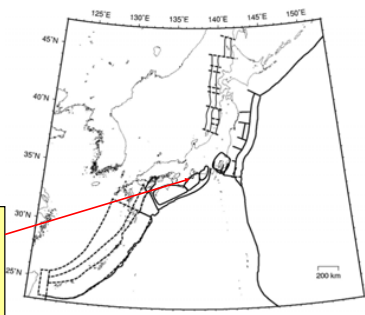
平成18年9月8日 全国を概観した地震動予測地図について 20

確率論的地震動予測地図で考慮した地震

・ 海溝型地震

- 南海トラフの地震
- 宮城県沖地震および三陸沖から房総沖にかけての地震
- 千島海溝沿いの地震
- 日本海東縁部の地震
- 日向灘および南西諸島海溝周辺の地震
- 相模トラフ沿いの地震

東南海地震
 想定される地震の規模 M8.1前後
 30年以内の発生確率 60%程度
 平均発生間隔 約6.4年
 最新発生時期 1944年12月(昭和東南海地震)

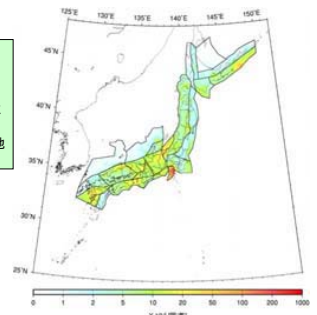


平成18年9月8日 全国を概観した地震動予測地図について 21

陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震

【評価の方法】

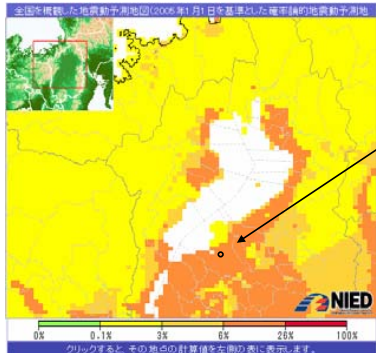
1. 発生領域を地域区分
2. その地域で過去発生した地震のうち長期評価に用いられていない地震の最大マグニチュードを設定
3. 地震の規模別発生頻度にもとづいて地震発生確率を規模別に評価



陸域の浅い震源を特定しに地震の発生頻度0.1度四方あたり、M5.0以上)

平成18年9月8日 全国を概観した地震動予測地図について 22

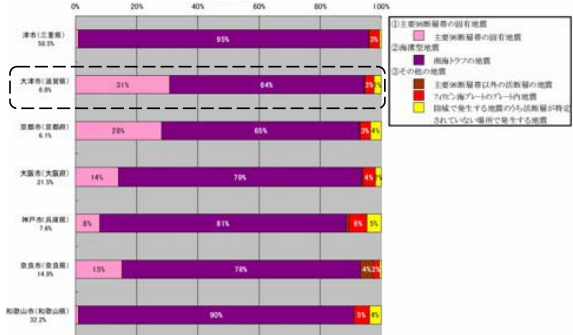
30年以内に震度6弱以上に見られる確率



近江八幡市は震度6弱以上になる可能性がやや高く今後30年以内に発生する確率は約18%

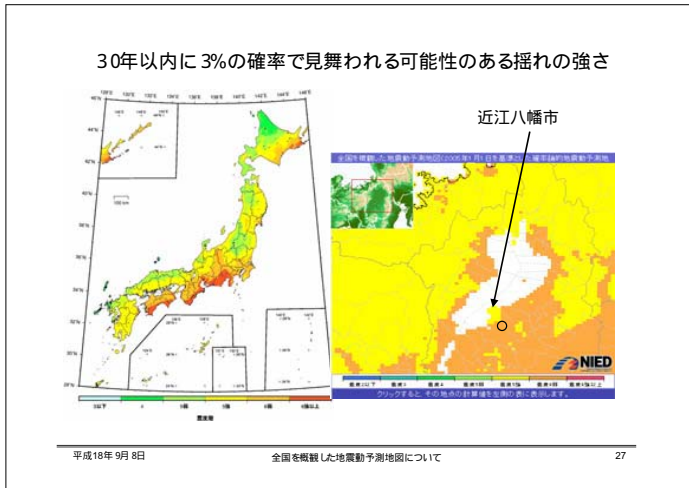
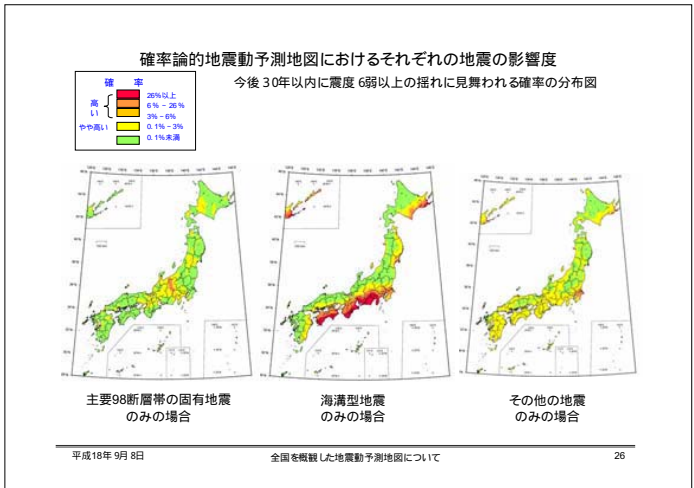
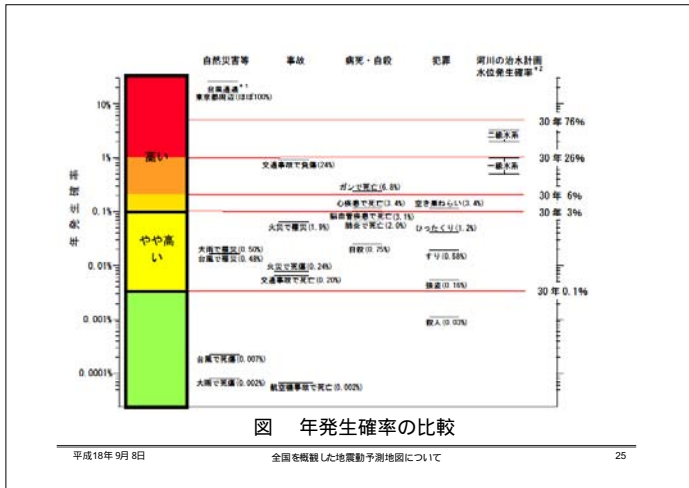
平成18年9月8日 全国を概観した地震動予測地図について 23

地震の影響度



今後30年以内に震度6弱以上の揺れをもたらす可能性のある地震の影響度

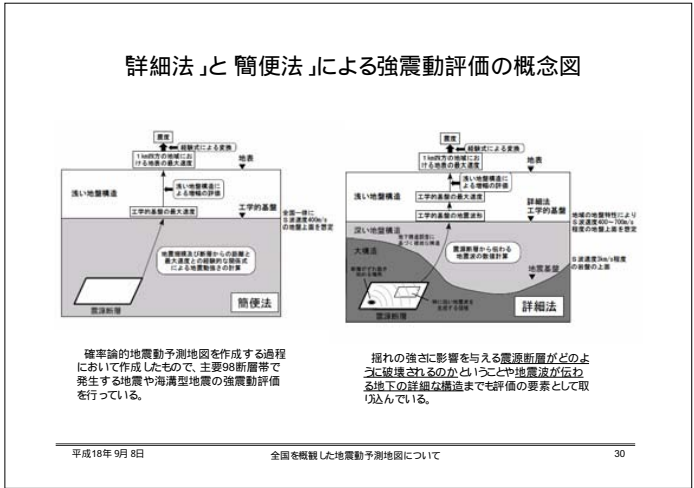
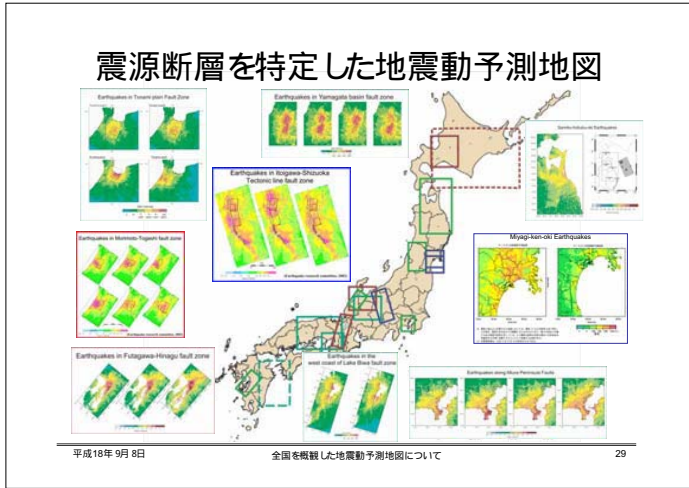
平成18年9月8日 全国を概観した地震動予測地図について 24

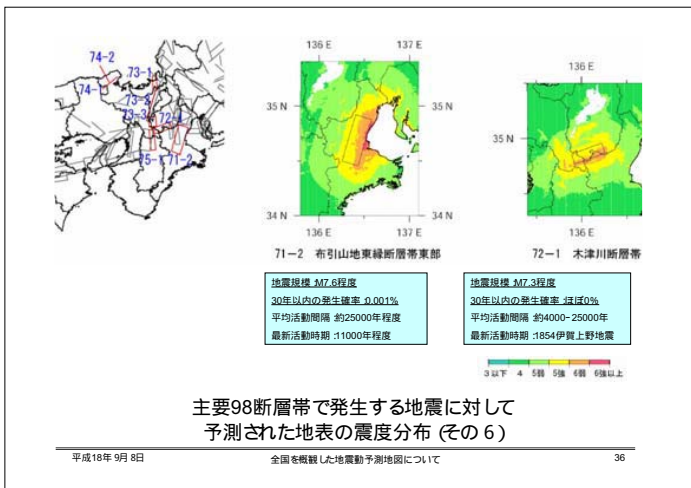
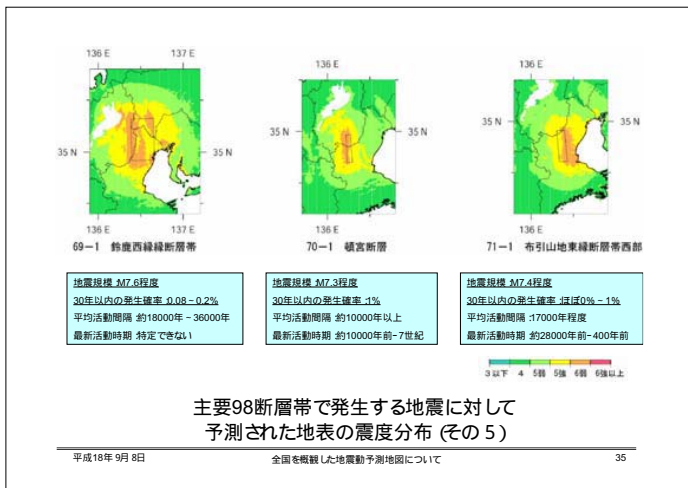
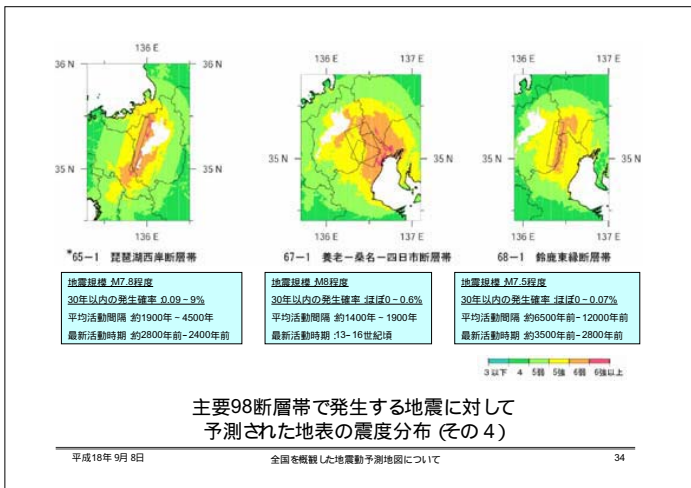
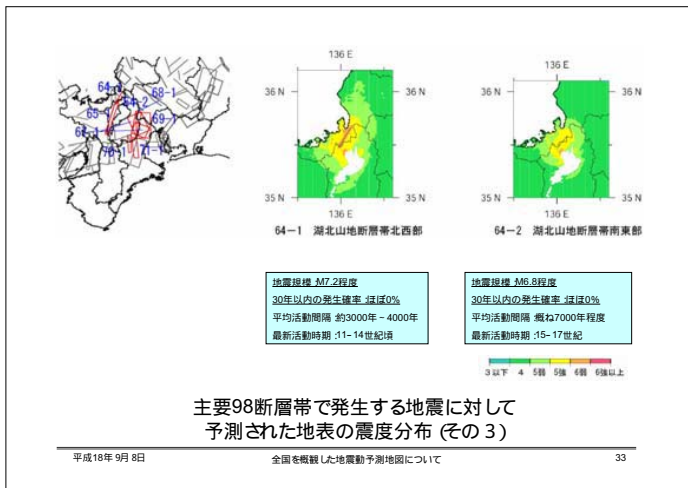
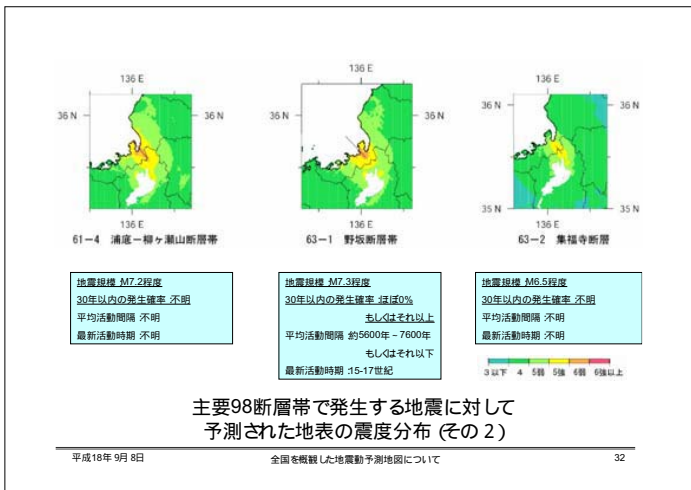
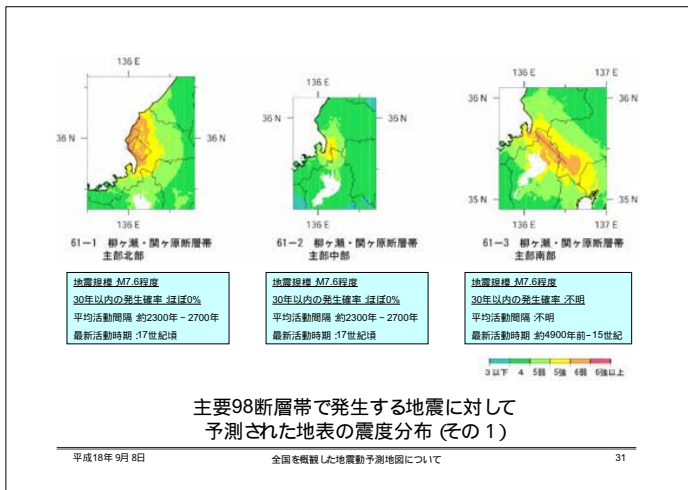


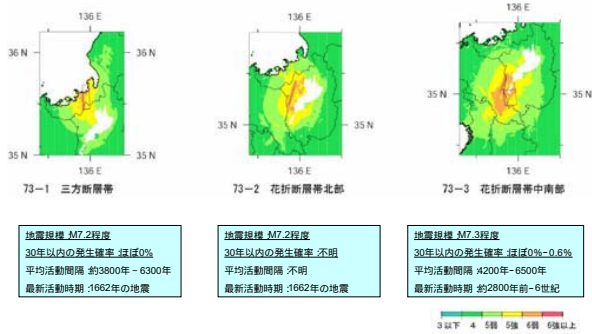
3.全国を概観した地震動予測地図について

(2) 震源断層を特定した地震動予測地図について

平成18年9月8日 全国を概観した地震動予測地図について 28







主要98断層帯で発生する地震に対して
予測された地表の震度分布 (その7)

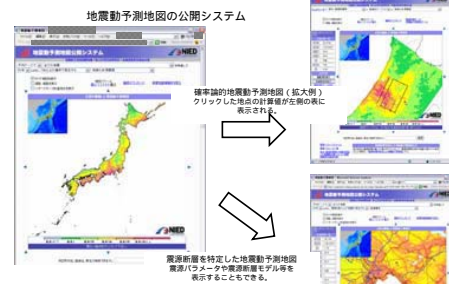
4.地震動予測地図の活用について

地震動予測地図の活用

- 地震に関する調査観測関連
 - 地震に関する調査観測の重点化の検討
- 地域住民関連
 - 地域住民の地震防災意識の高揚
- 地震防災対策関連
 - 土地利用計画や、施設 構造物の耐震設計における基礎資料
- リスク評価関連
 - 重要施設の立地、企業立地、地震保険などのリスク評価における基礎資料

地震ハザードステーション

J-SHIS (Japan Seismic Hazard Information Station)



<http://www.j-shis.bosai.go.jp/>
J-SHISは、(独)防災科学技術研究所ホームページの
中の「公開情報 地震」にあります。

災害が起こったら、災害が起こる前に
～地域防災力の向上に向けて

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
特任講師

菅 磨志保

災害が起こったら!? 災害が起こる前に・・・

～地域防災力の向上を目指して～

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
特任講師 菅 磨志保

1. 阪神・淡路大震災の経験と教訓から ～今、災害が起こったら?!

- “市民力”の再発見
- “市民力”を活かした地域防災の推進
- “助け合い”の新しい仕組み——「災害ボランティアセンター」の10年

2. 地域防災力の向上に向けて ～今までと少し視点をかえて・・・

- 自助・共助・公助
- “減災サイクル”：Disaster Management Cycle

3. これからの地域防災活動に向けて ～災害が起こる前に、今、何ができる?

- 活動をする前に：どう被災するか?
- 地域防災力の基盤になるものとは?
- 「非日常」と「日常」をつなぐ——地域防災活動の視点と手法

＝ 参考文献・情報 ＝

- ・ 東京ボランティア・市民活動センター編（2000）『市民主体の危機管理～災害時におけるコミュニティとボランティア』筒井書房。
- ・ 日本防火協会（2003/2004）『婦人防火クラブリーダーマニュアル（日常活動/訓練・実践編）』。
→URL http://www.n-bouka.or.jp/leader_manual/index.html
- ・ 浦野正樹『自主防災リーダーマニュアル』『自主防災活動実践ガイド』東京法規出版。
- ・ 1.17 神戸の教訓を伝える会編（1997）『阪神・淡路大震災被災地「神戸」の記録』ぎょうせい。
- ・ 菅磨志保・山下祐介（2002）『震災ボランティアの社会学』ミネルヴァ書房。

パネルディスカッション基調講演

新潟県中越地震に学ぶ地域コミュニティの役割

富士常葉大学環境防災学部教授

重 川 希 志 依

高校生に学ぶ中越大震災

富士常葉大学大学院環境防災研究科
重川 希志依

とてつもなく大きな恐怖の時間のなかで

★地震当日、家には姉と私の二人しかいなかった。突然大きな地響きが耳に入った。私は最初大きな雷が落ちてきたものだと思っていた。しかし、続いて突き上げるような縦ゆれがどンドンとその威力を増すように大きくなった。そこまでたっても私はまだそれが何なのか分かっていなかった。その縦揺れにとって代わったように、次いで身動きもできないような横ゆれに変わった。

グラグラガタガタと家具や物が勝手に動き、落下し、部屋の端にあった水槽がガシャン！と音をたてて砕け、私の足元に水の流れる冷たい感触が伝わった。目もなれない真っ暗闇の中感じるのは音と感触のみで、震えてすくんだ足を立たせて、必死になって外へ姉とともに飛び出した。

★10月23日午後5時56分・・・私は、一人で家にいた。そしたら急に揺れはじめた。そんなに揺れないだろうと、寝ていたら急に激しく揺れた。テレビは、横に激しくゆれ、たなから落ちそうだった。台所では、物が落ちる音が聞こえた。

すごく怖くて、とっさにケータイを持ち電話しようとしたが、腰が抜けて、手がふるえ、ケータイの変なボタンばかりおしてて、電話がかけられなかった。この日は運悪く、誰も家にはいなくて、すごく怖くて、立ち上がれなかった。

自分のいのち、大切な人のいのちを
まもるために

★自分は地震があったとき小千谷にいた。
電車が来るまで小千谷のいろいろな店に友
達と二人で遊びに行っていた。ある店によっ
た。そこでクラスの副担任の先生と会い少し
話をして、電車の時間なので帰ろうと思った
そのときにいきなり地震がきた。

店がゆれ商品や棚などが倒れてきた。副担
任の先生も床にたおれてしまった。先生は
妊娠していた。先生の上に棚がたおれてき
た。自分と友達が二人でその棚を支えた。
怖いという気持ちより先生を助けなければと
いう気持ちの方が強かった。

★その時私は廊下にいた。同じく廊下にいた母
が「火!!」と言って台所へ入ろうとしていた。そ
の瞬間私は母にしがみついていた。前にテレビ
で見た地震時の誤った行動でゆれているときに
火を消しに行つてはいけない、という事を思い出
したからだ。私は地震のせいで少しパニック状
態になっていたのか、「絶対に母に火傷をさせ
たくない」という思いからか十数秒間ずっとしが
みついていた。

一方母も「火事になったら大変」と思ってい
たらしく、「はなしなさい」とか言いながら私を
振りほどこうとしていました。揺れがおさまっ
たときには台所は足の踏み場もないほどに
グチャグチャになっていました。そんな状況
を見て「母が台所に入るのを止めてよかつ
た」と強く思いました。

家族の安否を確かめるために

☆父と私は自分たちの住む村へ帰ることにした。しかし道には無数の割れ目ができており、段差も激しい。仕方なく私たちは家まで歩いて帰ることにした。池の水が道路にあふれて、錦鯉が死んでいる。とても道といえない道だった。しかし、不思議と疲れることはなかった。ただひたすら村に戻ろうという気持ちしかなかった。その日は晴れていて星がとてもきれいだったことを覚えている。

何時間歩いたのだろうか。やっと村に着いた。が、そこは私の知っている塩谷の風景ではなかった。ほとんどの家はつぶれていて、木も倒れていた。しかも小学生が三人亡くなっているというではないか。いろんなことが一気にあり過ぎて状況を飲み込めないままその日は寝てしまった。

続く余震のなかで・・・

☆その時期はまだ10月で、外にいるのは寒すぎて凍えてしまいそうだったので、みんなで車の中へ避難しました。そしてその時聴いていたラジオで、親戚が二人亡くなったことを知りました。

祖父母も母親も泣いているし、父親はいろんなところへ救助などのために出向いているしで、ここで子どもまで泣いてしまったら誰が冷静に物事を考えるんだろうと思ったので、私や兄や弟は、なるべく平常心でいようと誓い、大きな地震が起こっても、一緒に揺れてみせたりと、笑顔やおどけていました。そんなことをしているうちに、本当に、その状況を楽しむようになっていました。

全てのライフラインが止まったとき
自分たちの暮らしを守る

◇地震が起きた時、私は家にいませんでした。家に帰れたのは朝でした。道が割れていたりと車で帰ることが無理だったため家まで歩いて帰りました。次の日、近くの小学校の避難所に行ったら、人がたくさん集まっていました。その時、昼食時でご飯が配られていました。

子どもとお年寄りにご飯をもらっていて、そのご飯がなくなったら、クッキー5枚。私はクッキーでしかもらえずすごくショックでした。おいしいともいえないクッキーだけじゃおなかが一杯になるはずもなかったです。こんな生活が1週間もつづき、本当に辛かったことをものすごく覚えています。

◇少しおさまってから近所の人たちと一緒にいた。そのとき近所の人たちみんなが、お互いに助け合っていた。すごいと思った。次の日から近所の人たちにご飯を食べた。ご飯はみんなの家から集めた物を使ったごはんだった。みんなで作ってみんなで食べた。地震で家がめちゃくちゃになったけど、すごく楽しかった。自分は料理を手伝ったり、食器を洗ったりした。

いつもなら親の手伝いなんかしないし、やりたくないけど、その時はすごく手伝いたい気がした。手伝うことがすごく楽しかった。余震がおさまってみんなが家に入れるようになってきた。嬉しかった。でも少しさみしかった。でも家で暮らせるようになってからも、救援物資をみんなで分けたりしていて、なんか助け合っていてすごいなあと思った。これからも何があるか分からないけど、周りの人たちと助け合っていきたいと思った。

◇去年の10月23日に地震が起き、それから数日たったある日のことだった。袋に入ったパンを見つけ、父に「これどうしたの」とたずねた。すると父は、学校で配布していたものをもらってきた、と言うのだ。私は正直だいぶ戸惑った。なぜなら私の家にはまだ食料も残っていたし、それほど困っていなかったからだ。

後日、友達にそのことを言った。すると友達も「あたしもそれ、お母さんに言った」と教えてくれた。そして、「でも、『他の人より自分たちのほうが大事』って言われたよ。」とも教えてくれた。私には、それが分からなかった。あまり困っていない私たちが、他の困っている人の事を考えずに暮らしていこうとするのだろうか。それとも、わたしのこの考えが甘いのだろうか。わからない。

家の片づけからスタート

◇ただ何もせず一日を送ることはできませんでした。家の中がメチャクチャで、片づけなければいけなかったからです。地震が起こると外に逃げ、やんだら戻って作業というような繰り返しでした。地震発生から4日たっても地震はやまず、僕たち家族は兄が住んでいる新潟市に避難しました。また、家の片づけをやめることもできないので、往復4時間かけて家の片づけに行っていました。

◇一睡もすることなく迎えた次の日、家の中は変わりはてていた。涙が出そうになるくらい悲しかった。しかし負けてはいられないと思い、必死になって片づけを手伝った。揺れが来るたびに外にでて、大変な仕事だった。

損得を考えずボランティアをしたたくさんの人たち

◇私はこの一年間、地震があった日を忘れていた。テレビでもうすぐ一年とやっているから思い出した。私はその前後の日付の感覚がない。十月から十一月のカレンダーがすっかりぬけ落ちているようである。あの日私が覚えていることはあまりない。その夜新潟市に住む友達から電話がきた。連絡がとれなくて心配したと言われた。その途端、ああ、生きてるんだなと思った。

生きているならしなくてはならないことがたくさんある。なるべく、ボランティアに参加するように心がけた。食事を配布する仕事をした時、たくさんの人にパンなどを渡した。大勢の人たちが家に帰ることができないことを知った。わたしはあの時、支えてもらう側だった。これからは、私が彼らを支えられたらと思う。

たくさんの人を励ませる
元気な小千谷にしたい

◇学校での生活が慣れてきたころ、復興も完全に終わっていない中、部活のみんなで遠藤書店という本屋に本棚の片づけを手伝いに行きました。本棚を壁からはずして、みんなでトラックへ積み東小千谷にある小屋までもって行きました。とても大変だったけど、小千谷復興のためや、小千谷を少しでも元気づけ活気を取り戻すためにも、みんなで協力をしてがんばりました。

中越大震災が起きたことで地域の方や市外・県外から来てくださったボランティアの方々が助け合うという事でひとつになる事ができたと思います。こんどは市外・県外の人々を励ませるような活気にあふれた小千谷市になってほしいと思います。

◇この震災で私は自分の無力さを思い知った。家族や近所の人、自衛隊やボランティアの方々など、本当にたくさんの人達に助けられた。いくら感謝しても足りないくらいだ。心から、ありがとうと言いたい。

それと私は、この大震災を経験したと言うことを驕って生きていくことだけは絶対にしたくない。「地震で大変だったから」といつまでも同じことばかり言っている人を見ると不快になる。少しずつでも、一步一步前進していくことが大切なのだ。妙見のあの事故現場も、メモリアルになんてしないで早く復旧してほしいと言うのが私の正直な意見だ。

大切なこと

- 自分のいのちを守ること
- 家族の絆
- 地域の人たちとの絆
- 友だちとの絆
- 知らない人たちとの助け合い

パネルディスカッション 資料

加古川グリーンシティ防災会の沿革

1986年	<ul style="list-style-type: none"> ・加古川グリーンシティ完成入居 ・自衛消防隊組織設立 ・管理組合に防犯防災委員会を設立 ・防犯防災委員会は、消防訓練の実施、迷惑駐車取り締まり、地域の青少年健全育成、夜回り巡回及び広報誌での各種呼びかけ
1995年 1月17日	阪神淡路大震災
1998年	<ul style="list-style-type: none"> 6月 行政からの呼びかけにより自主防災組織「加古川グリーンシティ防災会」設立 8月 マンション全域に防犯カメラを設置開始 11月 防犯防災委員会を防災会に統合 12月 防災会防犯担当部門として「グリーンシティ自警団」発足
1999年	<ul style="list-style-type: none"> 2月 第1回「町内ふれあいもちつき大会」開催 3月 自警団「夜回り」開始 10月 日本赤十字社指導のもと「救急救命法」の講習会開催 12月 「町内チャンピオンマップ」、「ひと声掛けてください」登録開始
2000年	<ul style="list-style-type: none"> 1月 防災会が元旦の神戸新聞トップ記事で紹介される 2月 エレベータホールにニューメディアシステム導入開始 7月 グリーンシティオリジナル「防災マップ」作成、配布 9月 グリーンシティあんしん情報登録制度「あんしんカード」登録、配付
2001年	<ul style="list-style-type: none"> 8月 「あいさつ運動」開始 親切運動「親切実行表彰」開始
2002年	<ul style="list-style-type: none"> 1月 「あんしんカード」携帯、登録キャンペーン 2月 「迷惑駐車一掃」キャンペーン 3月 「ひったくり防止」啓発運動 4月 防災会長が「兵庫県地域防災リーダー養成講座」講師として任命される 近隣マンションとの非常時防災協力体制の構築会議を開催 全世帯にひったくり防止「かごガード」配布、啓発 JR山陽本線連続立体交差事業（鉄道高架事業）に伴う通学路の安全対策 6月 サッカー「ワールドカップ観戦会」開催 7月 「グリーンシティ安全活動」開始 迷惑駐車一掃のため「有料来客駐車場」の新設 10月 専用サーバとLAN設備をマンション全域に新規敷設し、マンション運営情報及び緊急情報伝達システム「グリーンネット」を運用開始 我が家でできる防災訓練をグリーンだより紙上で開始
2003年	<ul style="list-style-type: none"> 1月 平成14年度「兵庫県優良自主防災組織表彰」 グリーンシティ「あいさつ運動」啓発キャンペーン 2月 神戸新聞に「グリーンネット」掲載される グリーンだより「紙上防災訓練」3ヶ月連続開催 5月 「人と防災未来センター」見学ツアー実施 10月 ニューメディアシステムを各家庭のテレビへ引き込み「48CH」で放送開始 11月 火災発生防止キャンペーン

2004年	<p>1月 次期防災会方針会議開催 「DIG」の取り入れ決定 消火器使用方法などをグリーンネットで啓発活動</p> <p>2月 あんしん情報登録制度「あんしんカード」更新</p> <p>6月 「小さな親切2004」運動開始</p> <p>7月 防災会長が加古川地区防犯協会から表彰受賞 「ひったくり防止」啓発運動</p> <p>11月 「命のライセンス」製作配付 防災会長が「ひょうご防災リーダ講座」講師として招かれる 神戸新聞に「命のライセンス」掲載 防災会長が「氷丘中学校」で講演</p>
2005年	<p>1月 防災訓練「災害図上訓練DIG」の研究会開催 自警団夜回りが神戸新聞掲載 神戸新聞防災特集に「命のライセンス」が再び掲載</p> <p>3月 携帯電話版「グリーンシティ防災情報」配信開始 携帯電話で「心肺蘇生法」の学習啓発</p> <p>4月 防災訓練「災害図上訓練DIG」を開催</p> <p>6月 防災訓練「災害図上訓練DIG」を開催 加古川市「上級救命講習」を役員受講</p> <p>7月 ネットワークカメラ設置</p> <p>8月 加古川市「応急手当普及員」として5名認定される</p> <p>9月 AED（自動体外式除細動器）の設置 NHK「難問解決！ご近所の底力」にお助けマンションとして出演</p> <p>10月 防災会長が兵庫県教育委員会「防災教育推進指導員養成講座 [上級編]」講演 防災会長が「氷丘南小学校」で講演</p> <p>11月 防災会長が「ひょうご防災リーダ講座」講師として招かれる</p>
2006年	<p>1月 「町内チャンピオンマップ」、「ひと声掛けてください」再登録</p> <p>2月 兵庫県「自主防災活動推進大会（芦屋市）」にパネラーとして防災会長が招かれる 毎日放送ラジオ「ネットワーク1・17」出演（会長と幹事）</p> <p>3月 第10回「防災まちづくり大賞」総務大臣賞受賞 神戸新聞に「第10回防災まちづくり大賞」総務大臣賞受賞団体として掲載 「ワールドベースボール観戦会」を開催</p> <p>4月 「町内チャンピオンマップ」登録者に防災会オリジナルネックストラップ配付 朝日新聞に「防災井戸」と「防災まちづくり大賞」受賞が掲載 毎日放送ラジオ「はやみみラジオ！水野晶子です」に出演</p> <p>5月 「防災井戸」設置工事開始</p> <p>6月 「ワールドカップ観戦会」を開催 「ワールドカップ観戦会」が神戸新聞に掲載 防災会長が「学校法人多木学園別府幼稚園」で講演、神戸新聞に掲載 トリアージシステム導入</p> <p>7月 「防災井戸」完成式典 日本経済新聞7月4日全国版夕刊特集「マンション・安心を求めて」に掲載 神戸新聞 7月7日「震災教訓に災害時の水確保へ防災井戸建設」に掲載 神戸新聞 7月16日「住民の防災井戸完成式」が掲載</p> <p>8月 エレベータ緊急時応急手当訓練 開催 神戸新聞 8月15日「事故に備え、エレベータの構造や救出を学ぶ」が掲載</p>

グリーンシティ防災会が取り組んだソフト面とハード面の事業

【防災ソフト面での事業】

1. 町内チャンピオンマップ（自分の持っている特技の登録制度）
2. 「ひと声掛けて」登録制度
3. あんしん情報登録制度「あんしんカード」製作
4. 「グリーンシティ防災マップ」製作
5. ふれあい餅つき大会（炊き出し訓練）
6. あいさつ運動
7. 小さな親切運動
8. グリーンシティ安全活動
9. 我が家でできる防災訓練実施
10. 防犯組織、自警団の設立
11. 子どもたちと合同の夜回りによる防犯防災意識の啓発
12. 毎月の広報誌「グリーンだより」発行による住民意識の高揚
13. サッカーワールドカップ観戦会の主催
14. 「命のライセンス」製作
15. 迷惑駐車一掃作戦
16. ひったくり防止「かごガード」を全世帯配布
17. 応急手当や救急救命法の訓練や資材整備
18. 市民救命士資格取得の啓発
19. 近隣マンションと非常時防災協力体制の構築
20. 防災講演会の実施
21. オリジナルDIG（災害図上訓練）マニュアルの作成
22. DIGを取り入れた防災訓練の実施
23. 「1000円出しの会」楽しくやろう防災会議
24. エレベータ緊急時応急手当訓練

【防災ハード面での事業】

1. 敷地内やエレベータ内に防犯カメラの設置
2. マンション運営情報及び緊急情報伝達システム「グリーンネット」導入
3. エレベータホールにニューメディアシステム設置
4. ニューメディアシステムの各家庭への配信
5. 対外向けのホームページ運営による防災意識の啓発
6. 携帯電話向け「防災情報ホームページ」運営
7. マンション内ネットワークカメラによる防犯防災体制の強化
8. オリジナル駐車駐輪シールの作成配布による迷惑車両の追放
9. AED（自動体外式除細動器）の設置
10. 防災用無線機の設置
11. 各種防災資機材の整備
12. 防災倉庫の設置
13. 各戸玄関扉に災害時役割シールの貼付
14. 地震対策として高置水槽を撤去しマンション上部の軽量化を図る
15. 防災井戸設置
16. トリアージシステム導入

【防災ソフト面での事業内容】

1. 町内チャンピオンマップ（自分の持っている特技の登録制度）

マンションには、いろいろな職種や免許を持った方々がいます。それらを防災に使わない手はないと考えました。

グリーンシティの防災意識の向上と、緊急時や災害発生時に何をすべきか、何を応援してもらうのか、緊急ボランティアをどのように呼びかけるのか等、グリーンシティの知恵袋集団やご意見番的集団として協力をお願いし、もしものときに適切な人に迷わず助言・力をかりることができるようにしました。

災害発生時、自分一人では対応することはできません。しかし、多くの人が集まれば色々な物事への対応が可能になるはず。子守ならできる、何でもやります、お手伝いであればやります、炊き出しできます等、何でも登録していただき、いざというときの防災会の強い支えにします。現在の登録メンバーは約150名を超えました。

2. 「ひと声掛けて」登録制度

お年寄りの方や傷病者、障害をお持ちの方がいらっしゃるご家庭等に、災害時に少しでも早く声掛けをするため、「災害時にひと声掛けてください登録」を呼びかけました。

「町内チャンピオンマップ」「ひと声かけて」は、災害に強いまちづくり、地域づくり、そして私たち自身の準備に役立つ取り組みです。



あんしんカード 2004年3月8日		
氏名	男	
生年月日	昭和 年 月 日	
住所	兵庫県加古川市加古川町平野24-1 加古川グリーンシティ	
治療中の病気		
かかりつけ医療機関		
電話 0794-	血液型	
緊急連絡先	氏名	続柄
	氏名	続柄
	氏名	続柄
共通連絡先	続柄	
避難所	水丘南小学校	
備考		
ID: 0087	加古川グリーンシティ防災会 TEL0794-25-6852	

3. あんしん情報登録制度「あんしんカード」製作

普段は運転免許証を持っているから安心と思うと大間違いです。個人の身分証明にはなるのですが、連絡先等が全く書かれていないのです。子どもたちや高齢者の方などは免許証を持っていませんから、特に身元が判明しにくいのです。

あんしんカードの内容は、血液型、治療中の病気、かかりつけの病院、緊急連絡先、広域災害時に役立つ遠方の親戚などを家族の共通の連絡先として、また地域避難場所なども記載しています。

このあんしんカード登録制度は、グリーンシティ居住者、又はグリーンシティに関係する方々を対象に「あんしん情報登録制度」として開始し、もしも登録された方が万一事故などにあわれたとき、あんしんカードを携帯しておくことにより指定された緊急連絡先に速やかに連絡を行ったり、ご家族の方やご親戚に連絡するシステムです。

申し込まれた情報は管理事務所において厳重に管理し保護され、他の人に知られることはありません。消防署等へあんしんカード製作のお知らせをし、携帯者の緊急時には防災会への緊急連絡をお願いしました。

12. 毎月の広報誌「グリーンだより」発行による住民意識の高揚

毎月発行されるフルカラーの広報誌です。平成18年9月現在で180号になりました。その広報誌で防災意識の高揚、危機管理の意識、災害時に向けての対策等を毎月啓発しています。



14. 「命のライセンス」製作

新聞にも取りあげられた活動の一つです。

グリーンシティ防災会は、わが家でできる防災訓練として、突然大地震が発生してもあなたとあなたの家族が無事でいられるように「命のライセンス」を作成しました。

地震発生直後から3日間をいかにあせらず過ごすかをまとめています。常に携帯することができ、必要なときに取り出して見られるようにカードサイズにしました。掲載した内容はいざというときに必要な最低限の内容にしました。折に触れて読み返し、いざという時に慌てず行動できるようにしておいてください。裏面には心肺蘇生法や避難場所、防災関係窓口、そして災害伝言ダイヤルの使用方法などを掲載しました。

カードサイズにしたために文字が小さく見えにくいとおっしゃる方には、見やすい大型サイズも用意しました。多くの方々にデータの提供を行ったり、小学校や中学校の防災学習資料として提供したり、他地域の方からの要請で他の地域版も作成しご提供しました。



「命のライセンス」は静岡県防災局からデータを提供していただき、グリーンシティにあわせた形式に変更し防災会メンバーが印刷から折り曲げまで手作りに製作いたしました。

22. DIGを取り入れた防災訓練の実施

「DIG」は準備が簡単でお金もかからず、災害の程度や参加者の立場によって自由な設定やアレンジが可能です。作業を進めていけば、自分たちの住む街や、助けを求めている人の住む街がどのような状態になっているのかを再発見でき、地図が何を訴えてきているのかが理解できるようになるはずです。しかも、「DIG」は作戦会議のようなもので、非常事態ということ想定すれば誰でも何かしら言いたくなるはずです。個人と個人の意見がぶつかりあうことで参加意識は高くなり、災害の対応や救援活動などについて、様々な考え方があるといことも自ずと理解できてきます。そして、その意見交換からよりよい防災活動の在り方がイメージされていくことになるのです。グリーンシティ居住者の幅広い年代層の多くの方々に参加していただき、経験や知恵をお借りしたいと思います。



24. エレベータ緊急時応急手当訓練

2005年7月の千葉県北西部地震では、東京都内で震度5強の大きな揺れを観測しました。その際、建物の被害は、火災2件のみでしたが、交通機関の運転停止や、エレベータの閉じ込めなど、都市型災害の発生が顕在化しました。

エレベータについては、都内の12万3千台のうち、3万9千台が停止し、42台のエレベータで閉じ込めが発生しました。閉じ込めからの救出にかかった時間は、通報後平均約50分で、最長170分であったそうです。震度5強でこの程度ですから、大規模な地震の際は、消防は消火や倒壊家屋からの人命救助等の対応に追われ、エレベータからの救出に向かうことができないと想定されます。また、エレベータ保守会社も公共施設や病院などから優先的に確認作業に入ると考えられます。そこで「自分のまちは自分たちで守る」基本理念から、その対策としてグリーンシティ独自の救出体制の整備が必要だと考えました。

しかし、今回の救出訓練が一朝一夕に実現できたわけではありません。訓練実現までには以下のような多くの問題点があり、我々はその一つひとつを乗り越え今回の訓練の日をむかえることができました。

【問題点の一例】

- ① 一般人による安易な救出は危険を伴うため、安易に訓練のレクチャーはできない。
- ② 継続してその任に当たってもらえる体制が無ければ、指導する側も責任が持てない。
- ③ 救出時の保守会社との連絡体制の構築
- ④ グリーンシティ独自の救出マニュアル化
- ⑤ 定期的に訓練を開催する等



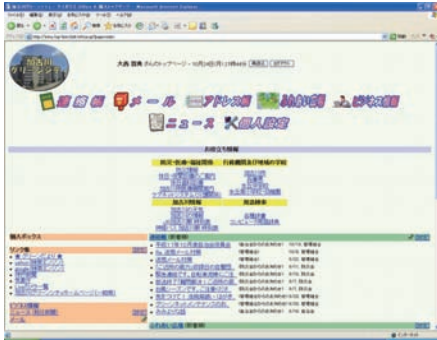
【防災ハード面での事業内容】

2. マンション運営情報及び緊急情報伝達システム「グリーンネット」導入

マンション運営情報及び緊急情報伝達システム「グリーンネット」を確立しました。

全家庭に新規にLANケーブルを敷設し、光通信による居住者間の情報伝達とインターネットアクセス円滑化がスムーズできるようになりました。

グリーンシティ内には総合的な連絡網が掲示板以外存在しませんでした。防災面及び今後のマンション運営面を考えたとき、自宅で確認できる「情報共有設備」の必要性を強く感じ、「マンション運営情報及び緊急情報伝達システム設備」導入を決定し、その愛称を「グリーンネット」としました。



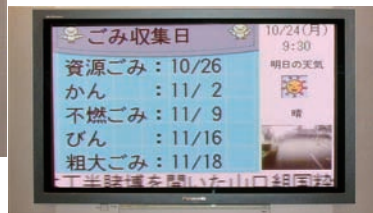
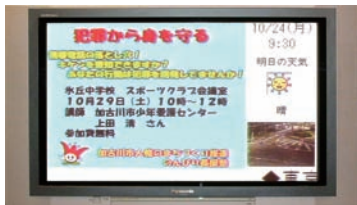
3. エレベータホールに「ニューメディアシステム」設置

エレベータホールの液晶モニターで緊急情報やコミュニティ情報を確認できるようになりました。防災情報及び各種コミュニティ情報を放送し、幅広い方々に伝達が可能になりました。



4. ニューメディアシステムの各家庭への配信

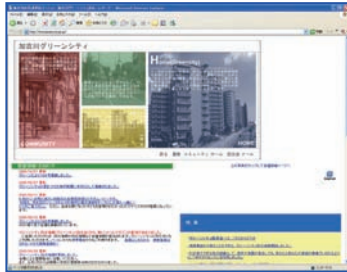
エレベータホールに「ニューメディアシステム」設置をしましたが、緊急情報を1階のエレベータホールまで確認に行かなければなりませんでした。そこで、テレビの空きチャンネルに接続し、各家庭で緊急情報やコミュニティ情報を確認できるようになりました。台風などの警報発令時など、各種学校園の対応を各担当役員が自宅から書き込みをして放送配信できるようにしました。また、ニューメディアシステムでも、防犯カメラの情報を取り込みリアルタイムで放送しています。



5. 対外向けのホームページ運営による防災意識の啓発

パソコンでのホームページを自主製作し、内外に防災情報やマンションの情報を提供。

<http://www.greencity.gr.jp>



6. 携帯電話向け「防災情報ホームページ」運営

携帯電話でも見ることのできる緊急情報サービス「グリーンネット防災会」で情報を提供し、携帯電話で心肺蘇生法の学習なども行えます。

<http://www.greencity.gr.jp/kinkyu.htm>

15. 防災井戸を設置しました。

災害によるライフラインの断絶、および非常トイレ等の対策として準備しました。非常時の「水」を確保する為にグリーンシティでは防災井戸を設置しました。

最近の災害事例から問題は、大量に必要な「生活水」と思われます。被災住民として生活していくために最低限必要な「生活水」は、どんなに少なく見積もっても、一人一日20ℓは必要です。その中で最も必要とされるのが、トイレの水と言われます。人間生きていくために、入浴は我慢できますが、排泄行為を我慢する事は不可能であり、現在のトイレはほとんどが水洗でその洗浄水は1回に10ℓが必要なのです。少量の水で流すとすぐに排水管が詰まってしまうのです。グリーンシティ防災井戸の水は地下30ℓから汲み上げています。また、飲料水適応検査も行っています。



加古川グリーンシティ防災会のコンセプト

グリーンシティ防災会は、地域における「ひとつづくり」、「ひとつのつながり」をテーマとして運営しています。地域コミュニケーションを大切に、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という意識を忘れず、次世代へ防災体制の受け渡しをしていきます。

「まち」というのは必ずしもハードだけではなく、ソフトとハードが複合したものです。その中のコミュニティそのものがライフラインなのです。生きていくために必要で基本的なインフラ（水道・ガス・電気）をライフラインと言うのであれば、コミュニティはまさにライフラインなのです。

加古川グリーンシティ防災会は「土手の花見」の精神を引き継ぎます

防災を「防災」と語らずとも、防災の果たす役割を語ること、それが、加古川グリーンシティ防災会のコミュニティへの仕掛けです。

以上、加古川グリーンシティ防災会

パネルディスカッション

『持続可能な地域における減災対策のすすめ』

近江八幡市岡山公民館

館長 中田 全一

“「いきいき岡山」の学区まちづくりを進める”

1. 現状と課題

- ① 社会教育の拠点施設である公民館から、地域コミュニティセンターへ
- ② 地域福祉、自主防災、青少年健全育成、ボランティアシステムの構築、情報発信等々「学区民の、学区民による、学区民にとって確かなまちづくり」を進めるための拠点づくり

2. 「まちづくり協議会」が求められること

- ① 協働(パートナーシップ)のまちづくり—住民主導のまちづくり
- ② 学区社協、学区青少年育成会議、体育振興会、文化振興会、人権尊重のまちづくり推進協議会、赤十字、消防団等々各団体の横断的な事業を展開する部会づくり
(健康福祉部会、人材育成部会、生涯学習部会、環境・^{まち}郷づくり部会、地域活動部会、防災安全部会、人権交流部会)
- ③ 公民館が「誰もが集い合い、相談しあえる場」としての部会別サロンづくり
- ④ 学区のいいところ紹介、大人のぶらりマップ、若いお父さんお母さんに活用してもらえる子育てマップ
- ⑤ 公民館の開放をめざしたギャラリー開設
- ⑥ 地域安全の啓発をめざす防災マップ作成

3. 情報共有と理論武装

- ① 情報を共有すること—「まちづくり」への確かな取り組みの礎
- ② 地域を次代へ正しく伝える「語り部」として確かな理論武装が必要

平成 12 年（2000 年）よりこんなことを行ってきました。

◎ 平成 12 年度（2000 年）

- ・ パソコンによる公民館長、主事、自治会長の手作り名刺作成
- ・ 国旗掲揚台設置
- ・ ギャラリー開設（二ヶ月毎に学区内居住作者の作品展示）
- ・ 祝い金等の虚礼廃止申し合わせ
- ・ 学区章募集制定 旗作成 掲揚

◎ 平成 13 年度（2001 年）

- ・ 学区歌募集制定「いきいき岡山」
- ・ 「ふるさとの古を訪ねて」第3集発行 全戸配布
(第1集 平成11年、第2集 平成12年 各発行全戸配布)
- ・ 「岡山学区安全、安心まちづくり協議会」設立
- ・ 公民館駐車場および周辺環境整備
- ・ 省エネルギー研修ツアー開催（原子力発電所）
- ・ 消防「出初式」開催 以後毎年実施
- ・ 「まちづくり協議会」設立へ向けて勉強会開催
- ・ 先進地研修（兵庫県宝塚市）

◎ 平成 14 年度（2002 年）

- ・ 学区歌「いきいき岡山」CD作成 全戸配布
- ・ 「岡山ぶらりマップ」作成 全戸配布
- ・ 「コミュニティーコーディネーター」配置 2年間
- ・ 「人権サポーター」配置 3年間
- ・ 「子ども体験活動協議会」設立
- ・ 第1回「岡山塾」開講
- ・ 「まちづくり協議会」設立
- ・ 「文化ツアー」研修会（大阪歴史博物館・大阪市住まいのミュージアム・朝日劇場）
- ・ 先進地研修（愛知県稲沢市・愛知県瀬戸市）

◎ 平成 15 年度（2003 年）

- ・ 「まちづくり協議会」短期、中期、長期計画検討実施
- ・ 「岡山いいところ50選」選定制作 全戸配布

- ・ 第2回「岡山塾」開講
- ・ ウォークラリー開催（岡山ぶらりマップ活用）
- ・ 「地域福祉計画事業」策定のための現状と対応調査
- ・ 先進地研修（岐阜県郡上市八幡町）
- ・ 近江商人 岡田弥三右エ門氏活躍の地 古平町との交流に向けて勉強会
- ・ 「文化ツアー」研修会（名古屋市市政資料館、円頓寺散策、鈴蘭南座）
- ・ 岡山小学校プラスバンド維持支援（本年より5ヶ年間一連合自治会支援事業）

◎ 平成 16 年度（2004 年）

- ・ 地域福祉計画策定
- ・ 第3回「岡山塾」開講
- ・ 子どもゆめ基金によるウォークラリー開催（5/29、6/19、9/11、2/12）
- ・ 「公民館のあゆみ」作成準備
- ・ 幼児教育推進事業協力
- ・ 子育てマップ作成準備
- ・ 「子ども体験活動協議会」事業支援
- ・ 防災マップ作成準備
- ・ 安全で安心なまちづくり自主活動団体補助事業
- ・ コミュニティコーディネーター → 地域教育推進員として延長配置 2 年間

◎ 平成 17 年度（2005 年）

- ・ 学区福祉関係ボランティア団体紹介チラシを作成・配布
- ・ ボランティアバンク登録募集(継続中)
- ・ 第4回「岡山塾」開講
- ・ 「公民館のあゆみ」作成準備委員会員発足
- ・ 近江商人「岡田弥三右衛門」に関する勉強会開催
- ・ 子育てサロンの充実
- ・ いきいき岡山一子育てマップ作成・全戸配布
- ・ 人権コンサート開催
- ・ 環境に関する講演会開催
- ・ 「安全パトロール」マグネットシート配布
- ・ パトロール用吊り下げ名札作成(P・T・A,老人会,自治会配布)

- ・ ふれあいのまちづくりー「キャラバンショー」開演
- ・ 「いきいき岡山」作文募集ー岡山小児童
- ・ ウォークラリー開催(11/13)
- ・ 「文化ツアー」研修会(奈良県橿原市今井町、大宇陀町)
- ・ 防災マップ、地域防災計画策定協議
- ・ 先進地研修(三重県名張市 10/13.福井県越前市 11/25)
- ・ 視察受け入れ(湖南市・大阪貝塚市)

これから こんなことをやって行きます (平成 18 年 2006~)

- 「地域福祉行動計画」作成
- 「ボランティアバンク」設立へ向けて
- 通学合宿(子ども体験活動協議会事業)協力
- 第5回「岡山塾」開講(11/8~5回)
- 「文化バンク」設立へ向けて
- 「地域歴史マップ」作成
- 「文化ツアー」研修会
- 「岡田弥三右衛門」勉強会 北海道古平町(開町の礎)との交流
- 重要文化的景観エリア内の景観提案
- ゴミ学習会開催
- 「地域防災プロジェクト」設立ー地域防災計画作成
- 防災マップ作成・全戸配布
- 国際交流ー料理教室を通じて
- ハングル講座の開講
- 「公民館のあゆみ」作成

住民と行政が共に智恵を出し合い、実践の実を挙げることこそ

次代へ繋ぐ確かなまちづくりへの生き様

「住民自ら考え、それを企画し、施策としてまとめる」

住民自治の原点を再検証するいい機会

4. コミュニティの成熟度

① コミュニティの喪失

- ・ まちと田舎 — 都市と農との関わり
- ・ 向う三軒両隣と個
- ・ 地域自治における義務と責任
- ・ 住民主導 — 主体的住民

② コミュニティの再構築

- ・ 学ぶ — 先人、歴史、文化、自然、風情・人情
- ・ 仲間づくり — サークルやサロン 情報共有のためのシステム
- ・ 老若男女のおつきあい — イベント、研修、子育てサポート

身銭を切って汗を流そう

5. 防災マップや地域防災プロジェクト

安全・安心のまちづくり—自主防災会から地域連携へ

① 自主防災会

平成9年(1997年)学区内全10町において順次設立

自治会、特設消防隊(自警団)を中心に町内において

1. 防火防犯診断(全戸訪問パトロール)
2. 農繁期パトロール
3. 年末夜警
4. 防火・防犯・防災設備の点検
5. 防火・防犯・防災訓練(町内一斉)を実施

② 学区防火・防犯自治会

平成12年(2000年)設立

防火・防犯・防災意識の高揚と予防啓発

1. 防火防犯・防災合同訓練

毎年10町が順番に訓練会場、訓練企画を担当し、自治会・消防署・公設消防団・特設消防隊(自警団)・全住民参加のもと、実践訓練を行っている

平成元年(1989年)から実施し、平成12年(2000年)学区防火防犯自治会に引継ぎ現在に至る

2.学区消防出初式

平成 13 年(2001 年)より実施

3.各町自主防災会が実施する防火・防犯診断結果の検討・分析

③ 安全・安心まちづくり協議会

平成 13 年(2001 年)設立

住民の自主的な生活安全活動の推進活動

住民の生活安全対策の意識向上活動

学区内諸活動の連絡調整と、行政・警察の行う施策・事業への相互協力活動

④ まちづくり協議会—防災・安全部会

平成 14 年 まちづくり協議会設立

「防災・安全部会」として、災害に強い学区づくりを通して地域安全・安心まちづくり活動の推進を図る

1.「防災マップ」作成

学区内各町の防火水槽・消火栓・避難場所・避難経路等のマップ
(平成 18 年 全戸配布)

2.「地域防災プロジェクト」設立—平成 18 年度中

自治会・消防・消防OB等で構成

「地域防災計画」の作成

1.地震における避難場所の検討

水防における避難場所の検討

2.内水排除、逆水対策

3.井戸調査

4.「防災士」認定へ向けて

5.減災 10 則 or20 則の作成

安全・安心のまちづくり—地域連携

情報共有—地域コミュニティの再構築